

資料編

【資料編】

1 広島県農林水産業・農山漁村の現状

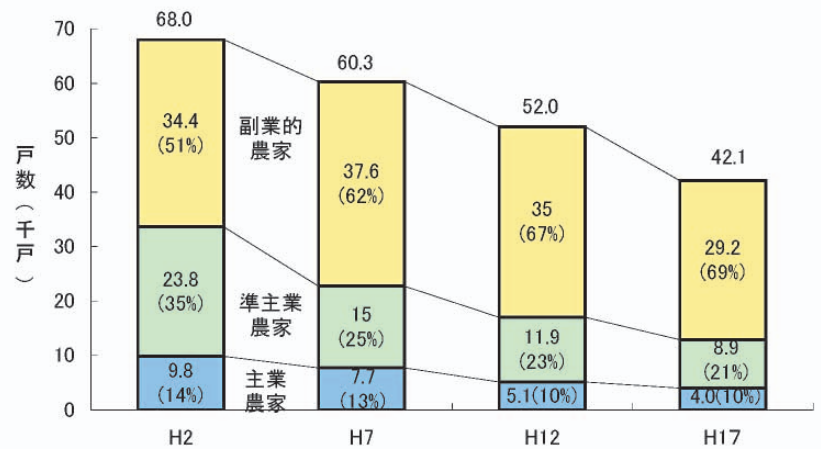
(1) 農業

農家戸数は一貫して減少するとともに、主業農家、準主業農家から副業的農家への移行が進んでおり、農業依存度の高い主業農家の減少傾向が顕著になっています。

また、基幹的農業従事者（販売農家）の65歳以上比率は75%に達しており、高齢化が加速度的に進行しています。

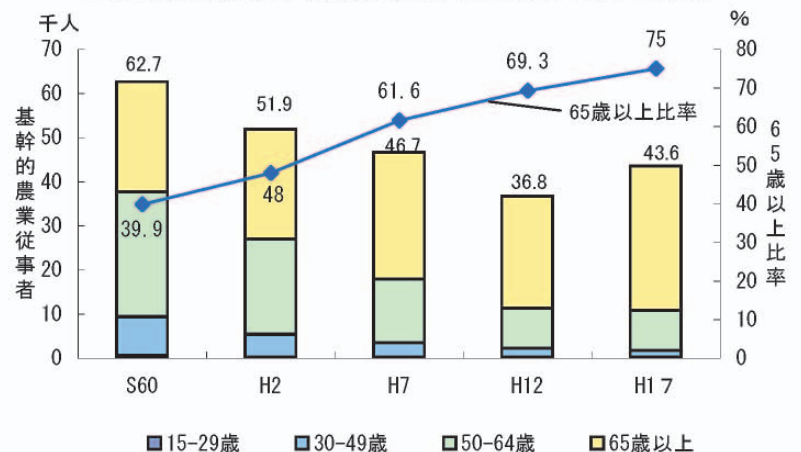
一方、新規就農青年数は年間40人程度に留まっており、このまま推移すると農業生産の担い手が激減することが予想されます。

主副業別農家戸数及び割合の推移（販売農家）



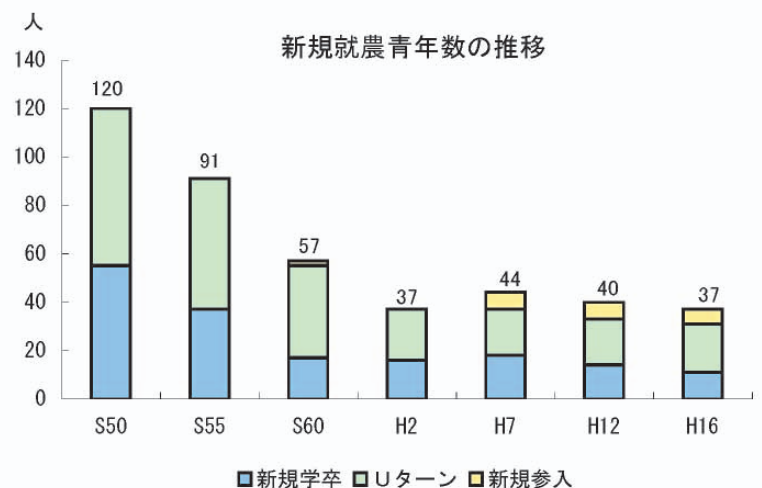
資料：農林水産省『世界農(林)業センサス』

基幹的農業従事者数（販売農家）と65歳以上比率の推移



資料：農林水産省『世界農(林)業センサス』

新規就農青年数の推移

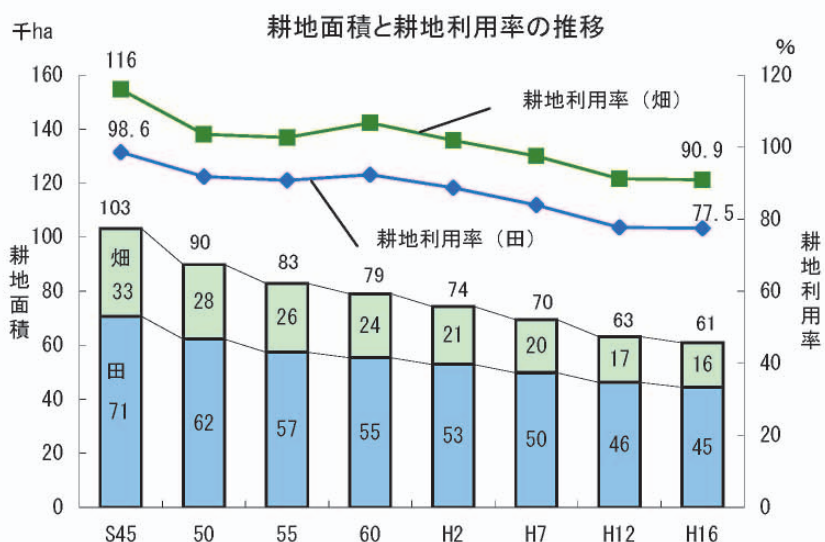


資料：広島県経営企画室調べ

【資料編】

耕地面積は一貫して減少するとともに、耕地利用率も低下しており、残っている耕地についても効率的な利用が行われていません。

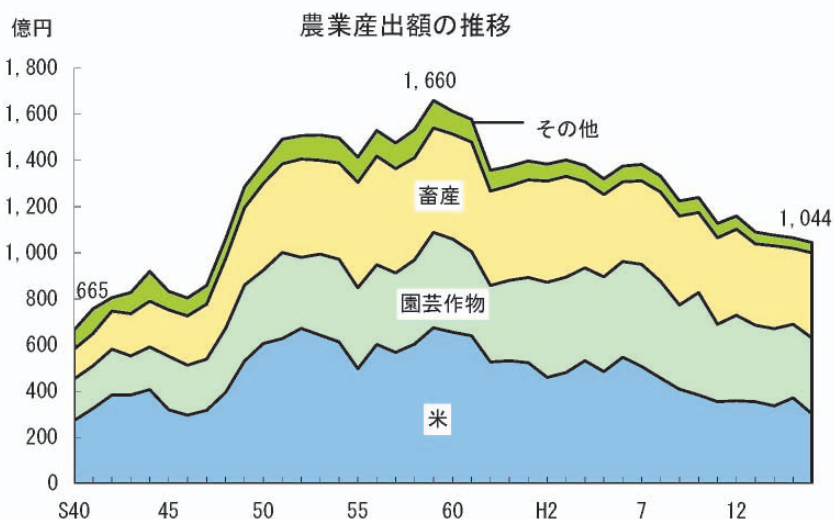
特に、田における耕地利用率が低位にあり、水稻に代わる作物の導入が進んでいない状況が窺えます。



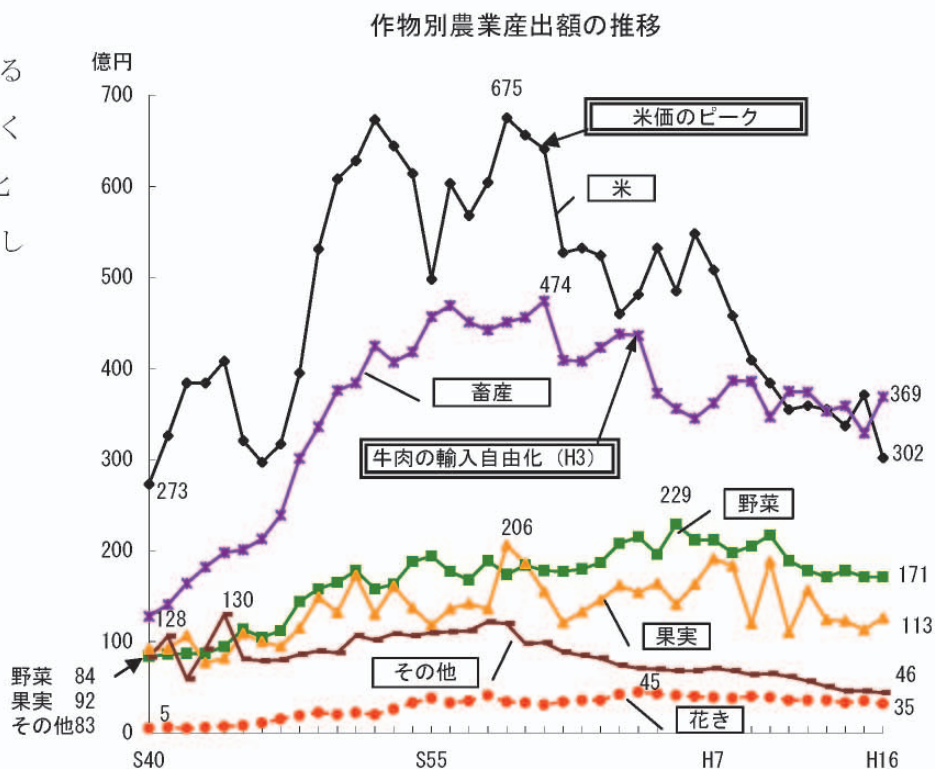
資料: 農林水産省『耕地及び作付面積統計』

農業産出額は、高度経済成長期には一貫して増加していましたが、昭和59年の1,660億円をピークに減少に転じています。

作物別の割合をみると、米、園芸作物、畜産がほぼ3分の1ずつを占めており、中山間地域を多く抱え、水田条件に恵まれていないにも関わらず、依然として米の割合が高くなっています。



作物別の農業産出額の推移をみると、昭和62年から米価の下落が続く米と、平成3年の牛肉の輸入自由化の影響を受けた畜産が大きく減少しています。



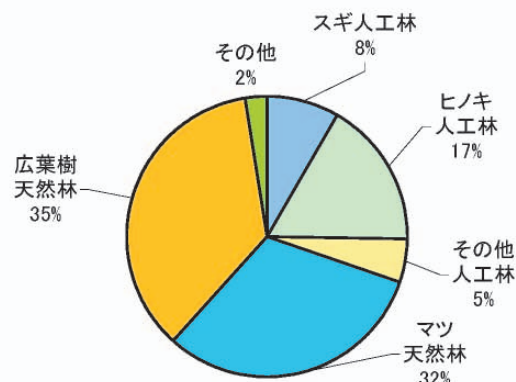
資料: 農林水産省『生産農業所得統計』

【資料編】

(2) 林業

広島県の民有林は、564千haで、8千2百万m³の蓄積があります。林種構成はスギやヒノキ等の人工林が約3分の1、マツの天然林が約3分の1、広葉樹の天然林が約3分の1です。

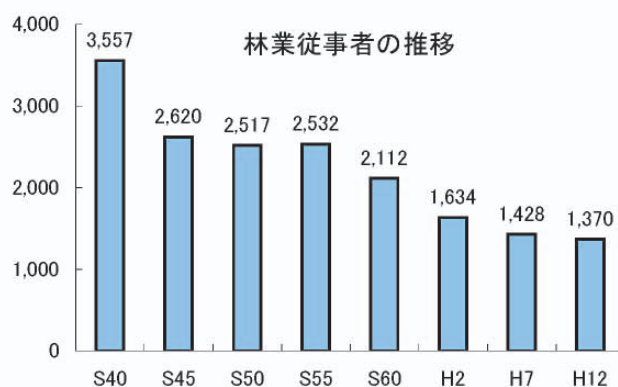
民有林の林種別面積割合



資料：広島県林務管理室調べ

林業従事者は、減少傾向にあり、平成に入って2,000人を割り込みましたが、近年下げ止まり傾向が見られます。

林業従事者の推移

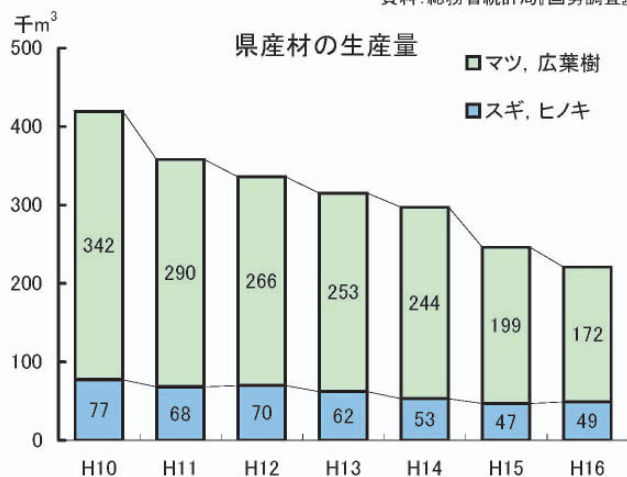


資料：総務省統計局『国勢調査』

林業生産活動は、森林育成のための経費が上がる反面、木材価格が下落する状況にあり、森林所有者の経営意欲が減退し、県産材の生産量は減少しています。

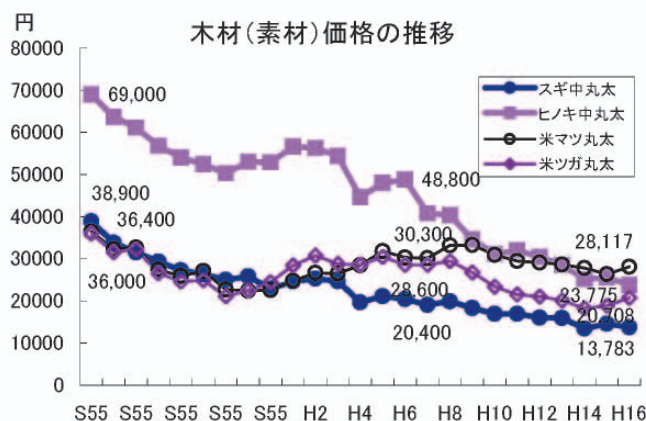
また、平成12年に「住宅品質確保促進法」と改正「建築基準法」が施行されて以降、安定的にまとまった一定品質の木材の供給が強く求められるようになっていきます。

県産材の生産量



資料：農林水産省統計部『木材需給報告書』

木材(素材)価格の推移



資料：広島統計情報センター調べ

【資料編】

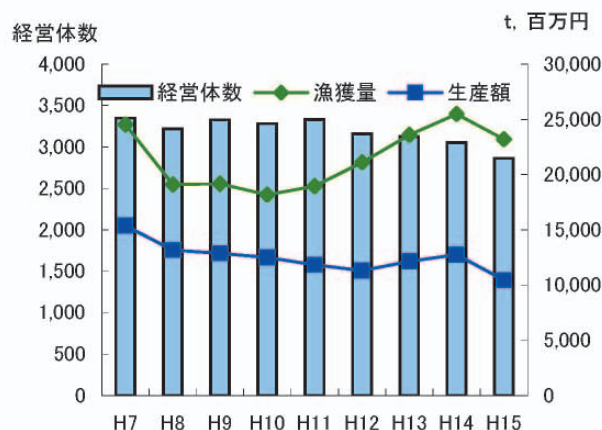
(3)水産業

ア 海面漁業

海面漁業の漁獲量は、近年カサゴの漁獲量が増えたため、増加していますが、全体的には減少傾向にあり、生産額も減少しています。

漁業経営体数については、年々減少しており、近年は3,000経営体前後で推移しています。

漁獲量・生産額及び経営体数の推移



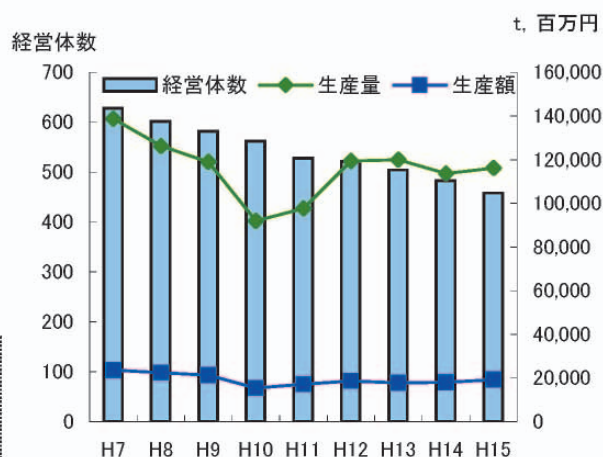
資料:「平・10・15漁業センサス」、「漁業動態調査」、「漁業生産統計調査」、「漁業生産額とりまとめ」

イ 海面養殖業

海面養殖業の生産量は、平成10年のヘチマササキによるかきの大量死以降、回復傾向にあります。また、平成15年の生産額は192億5,000万円で、平成12年に比べ6億4,000万円（3.4%）増加しました。

経営体数については、年々減少しているものの、かき養殖やのり養殖では1経営体あたりの生産額は増加しています。

生産量、生産額及び経営体数の推移



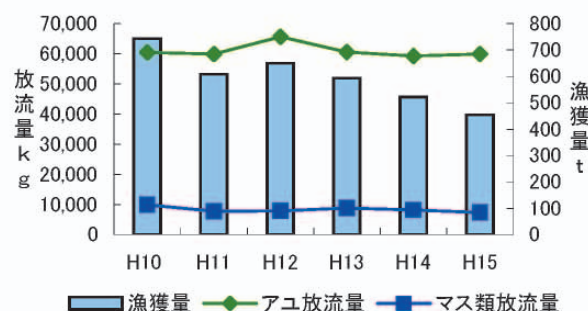
資料:「平・10・15漁業センサス」、「漁業動態調査」、「漁業生産統計調査」、「漁業生産額とりまとめ」

* 漁業経営体とは
海面において利潤又は生活の資を得るため、販売を目的として水産動植物の採捕又は養殖を行った経営体。ただし、年間の漁業の海上作業従事日数が29日以下の個人経営体は含まない。

ウ 内水面漁業と養殖業

内水面漁業はアユ、マス類を主体に漁業や遊漁が行われています。毎年、約70,000kgの放流が行われていますが、漁獲量は減少しています。

アユ・マス類の放流量と漁獲量



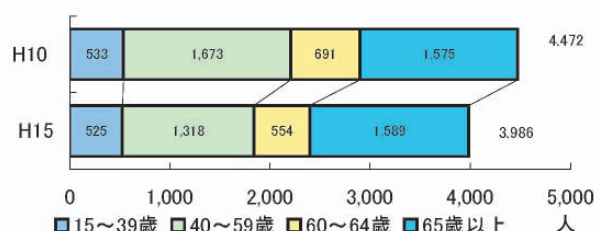
資料:広島県内水面漁連資料

エ 漁業経営体の動向

男子漁業就業者は、平成15年は3,986人で平成10年に比べ486人（約11%）減少しました。

特に40歳～59歳の就業者の減少が顕著となっています。また、男子漁業就業者のうち、特に65才以上の就業者が全体の約40%を占めており、高齢化が進行しています。

男子年齢階層別漁業就業者数の構成

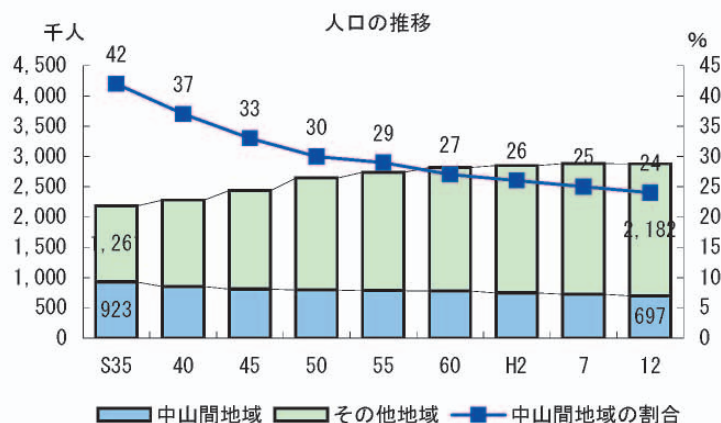


資料:平・10・15漁業センサス

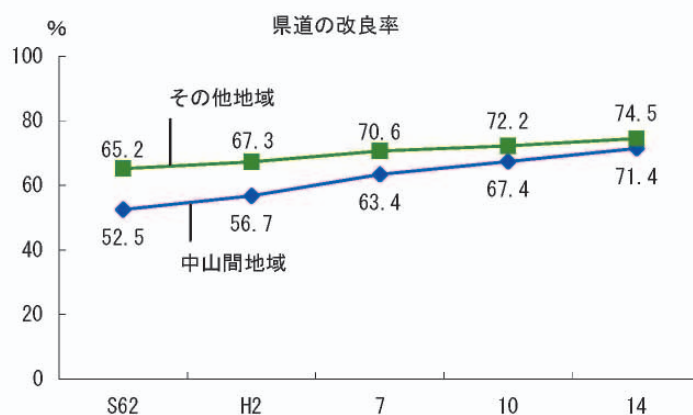
【資料編】

(4) 農山漁村（中山間地域）

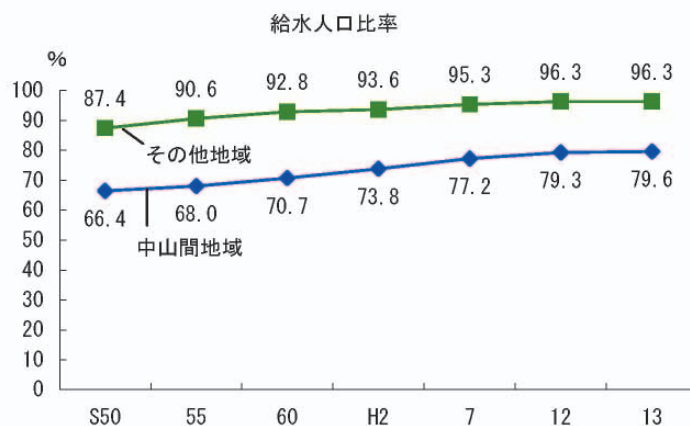
中山間地域の人口の推移をみると、この40年間で25%減少、広島県人口に占める割合も42%から24%に低下しており、過疎化が進行しています。



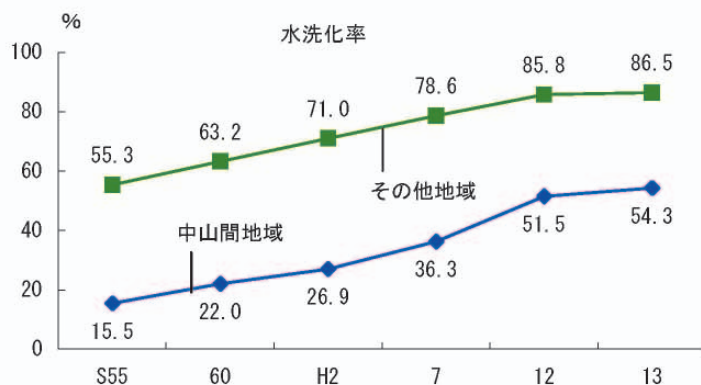
県道の改良率は年々向上し、現在ではその他地域と遜色のない整備水準となっています。



給水人口比率は年々向上し8割に達しているが、依然としてその他地域とは格差があります。



水洗化率は年々向上しているが、50%を超えた水準であり、依然としてその他地域とは大きな格差があります。



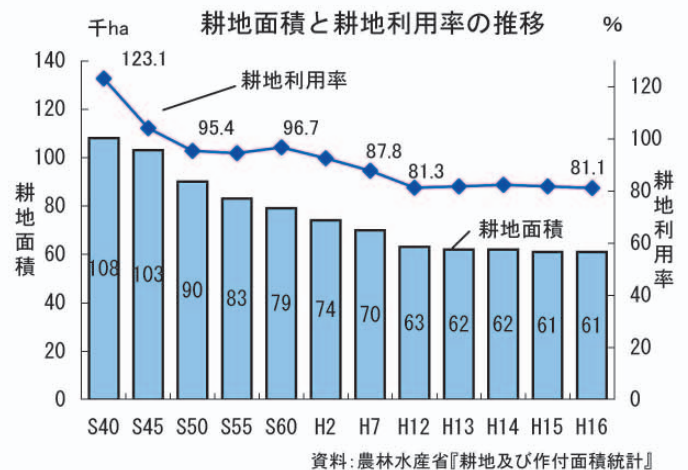
資料：広島県地域づくり推進室調べ

【資料編】

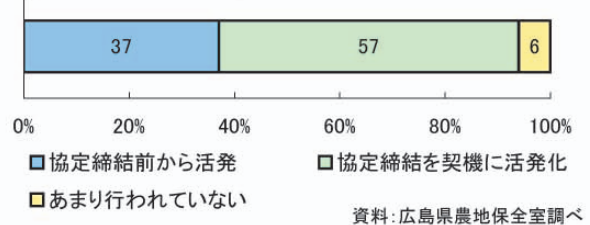
(5) 農林地の公益的機能

耕地面積は一貫して減少するとともに、耕地利用率も低下しており、残っている耕地においても効率的な利用が行われていません。

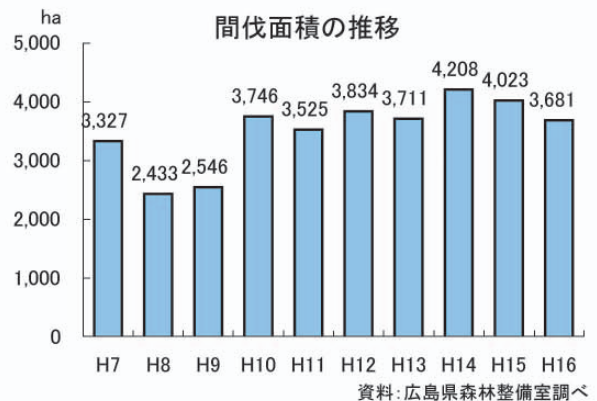
平成12年度から始まった中山間地域等直接支払制度は、農地等の農業資源の保全面で効果を発揮していますが、総体的には、自律的に農業生産活動等を継続できる状況には至っていません。



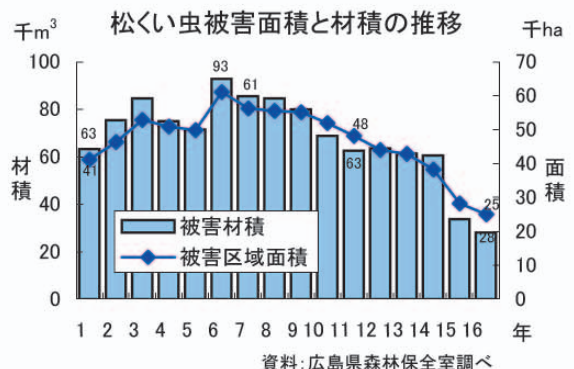
直接支払制度による農地管理等の効果発現状況



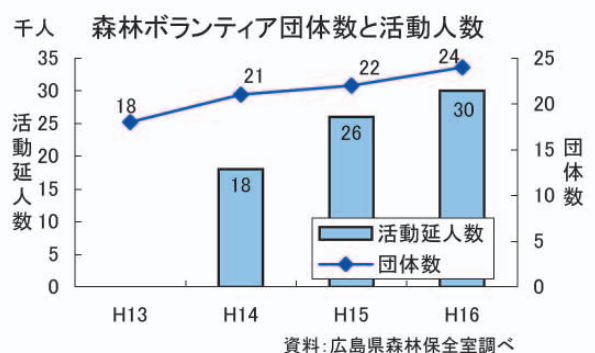
人工林の間伐は、計画的に進められていますが、材価低迷などで林業生産活動が低迷する現状では森林所有者による森林の管理が十分でなく、間伐手遅れ林分が見られます。



マツ林においても松くい虫被害はピークは超えましたが、依然として終息していません。



森林ボランティアによる森林整備への取り組みが進んでおり、平成16年度には延べ3万人が参加しました。また、企業による社会貢献の観点から「企業の森」づくりへの取り組みについても期待が寄せられるなど、県民参加の森林づくりの気運が膨らみつつあります。



【資料編】

2 活性化行動計画前期の総括

(1) 土地利用型農業の再構築

【目標】

農地を一つにまとめ効率的な営農を実現しうる集落農場型農業生産法人等が、本県土地利用型農業の相当部分を担う農業構造の構築

【成果と課題】

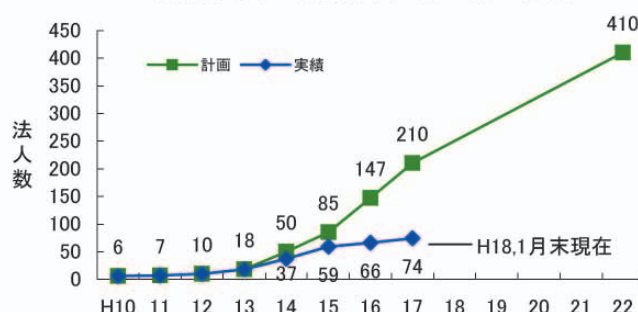
- 一定の成果はあるものの、法人化の更なる加速と経営の高度化が必要 —

集落法人は、17年度（H18.1月末）で74法人となっており、全国一の設立数となっています。

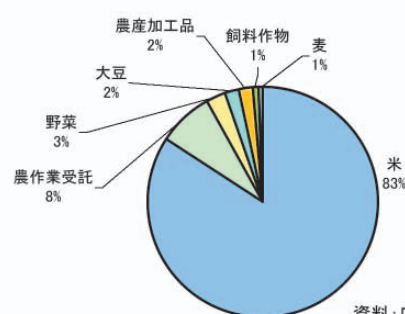
しかし、その伸びは計画に対し鈍化傾向となっており、法人化の一層の加速が必要です。

また、集落法人の収入に占める費目割合をみると、8割以上を米に依存しており、米の消費減及び価格低下が今後も続くことが予想される中で、経営の多角化などによる経営の高度化が必要となっています。

集落法人の育成計画と設立数の推移



集落法人の収入に占める費目割合(H15)



資料: 広島県経営企画室調べ

(2) 1億円産地の育成（園芸産地）

【目標】

多彩な農畜産物が生産されている本県の地域特性を活かし、多様な消費者ニーズを踏まえた県産品を安定供給するため、産地の牽引役である企業の経営体を中心とした1億円産地の育成

【成果と課題】

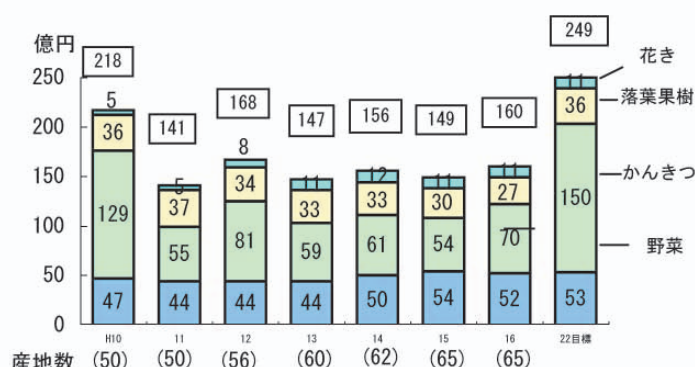
- 1億円産地は増加しているが、企業の経営体のシェア向上が課題 —

1億円産地数は、50産地から63産地へと増加していますが、市場価格の低迷等により、1億円産地販売額は、近年横這いで推移しています。

販売額を作物別にみると、野菜、花きはほぼ順調に推移していますが、果樹はかんきつを中心に減少しており、22年目標と大きな乖離が生じています。

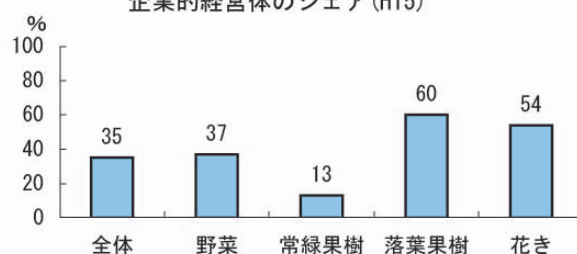
1億円産地の販売額に占める企業の経営体のシェアは全体で35%であり、今後は産地規模の拡大を図るとともに、企業の経営体を中心とした産地構造への転換が大きな課題となっています。

1億円産地数と販売額の推移



資料: 広島県農産振興室調べ

1億円園芸産地の販売額に占める企業の経営体のシェア(H15)



資料: 広島県企画調整室調べ

【資料編】

（３）１億円産地の育成（畜産産地）

【目標】

新鮮・安全・安心・高品質な畜産物を県民に安定供給するため、企業の経営体を核とした地域内連携システムの構築等による本県畜産の中核となる畜産産地の育成

【成果と課題】

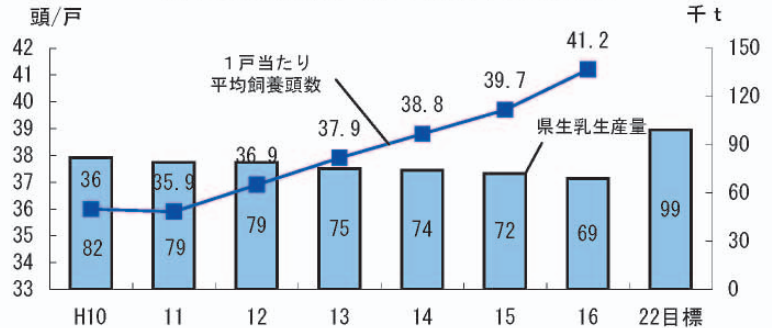
一 担い手への生産の集中が進行する一方、県全体の生産量は漸減ないし横ばい傾向 一

乳用牛、肉用牛とも１戸当たり平均飼養頭数は一貫して増加しており、企業の経営体への生産の集中が進行しています。

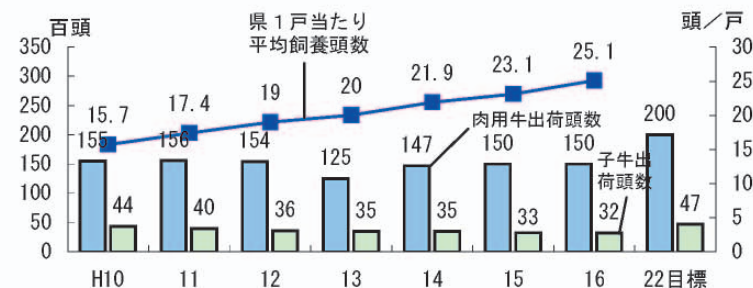
一方、県全体の生産量は、漸減ないし横ばい傾向となっており、高齢化等による縮小分を企業の経営体の規模拡大により補いできていません。

このため、引き続き企業の経営体の育成を図るとともに、これら企業の経営体の経営体質の強化や一層の規模拡大を図るため、飼養管理や衛生管理の徹底、耕畜連携による家畜排せつ物の処理体制の整備などが今後の課題となっています。

乳用牛の県全体戸数と生乳生産量の推移



肉用牛・子牛の出荷頭数の推移



資料：農林水産省『牛乳乳製品統計』、『畜産物流通統計』、『家畜市場取引成』、広島県畜産振興室調べ

（４）中山間地域等の農地保全

【目標】

中山間地域等直接支払制度の実施により、耕作放棄の原因となる農業生産条件の不利性を補正し、自律的な農業生産活動等による農地の公益的機能を維持・発揮

【成果と課題】

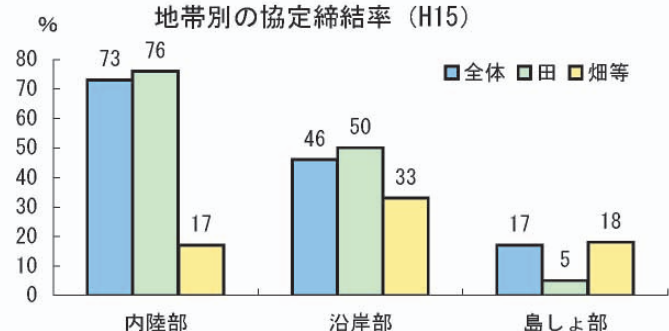
一 直接支払制度は一定の効果、自律的な農業生産活動への誘導が課題 一

中山間地域等直接支払制度の実績は、17年度（H17.10月末）で協定等締結数1,480件、協定農地面積19,084haとなっています。

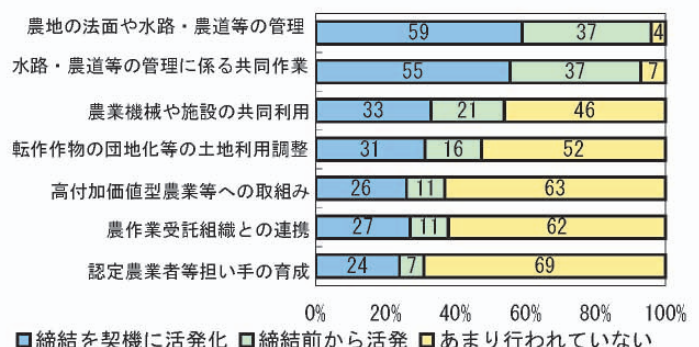
地帯別の協定締結率（H15）をみると、果樹等を中心とする沿岸島しょ部で低い水準にあり、これらの地帯の協定締結拡大が課題となっています。

直接支払制度の効果をみると、農地等の保全、集落活動の活発化等に一定の効果がある反面、総体的には、自律的に農業生産活動等を継続できる状況には至っておらず、将来に向けた担い手の育成等による農業生産活動等の取組を充実していくことが課題となっています。

地帯別の協定締結率（H15）



集落が感じている協定締結による変化（H15）



■締結を契機に活発化 ■締結前から活発 ■あまり行われていない

資料：広島県農地保全室調べ

【資料編】

(5) 採算の合う林業の再構築

【目標】

主要林業地において、育林から木材の生産・流通・加工の全部門を通じて採算性の向上と、育成途上にある人工林の木材生産量の確保。

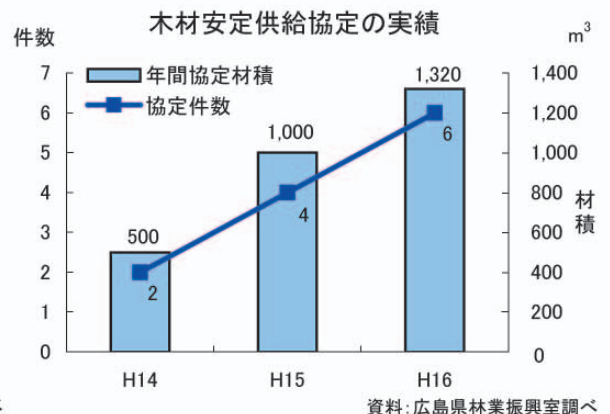
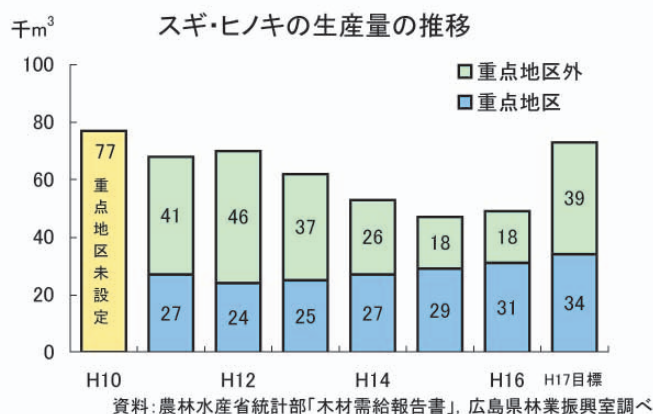
【成果と課題】

ー 一層の低コスト化が必要な林業経営 ー

木材の生産量は、主要林業地で「低コスト間伐普及マニュアル」等の各種普及マニュアルにより積極的な林業生産活動の誘導を図った重点地区については木材の生産量は少しずつですが増加傾向となりました。

しかし、全県の木材生産量はこれを反映できず、減少傾向になりました。これは、木材価格が低迷し、森林所有者や素材生産業者の林業経営意欲が低下していることに起因していると思われ、今後は、より一層の低コスト化を図るため、小規模零細な林業生産構造を集団化して効率的な林業経営を進めていく必要があります。

また、絶対量としてはまだ少ないものの、平成14年に県産材の内1%に満たなかった木材安定供給協定に基づく県産材の供給が取り組み始めて3年目には2.7%に向上するなど、流通の効率化に向けた取組みが着実に成果を上げつつあり、今後この仕組みづくりの定着が重要となっています。



(6) 災害に強い森林づくり

【目標】

健全で活力がある状態への誘導と、里山を中心とした県民参加型の森林整備の推進。

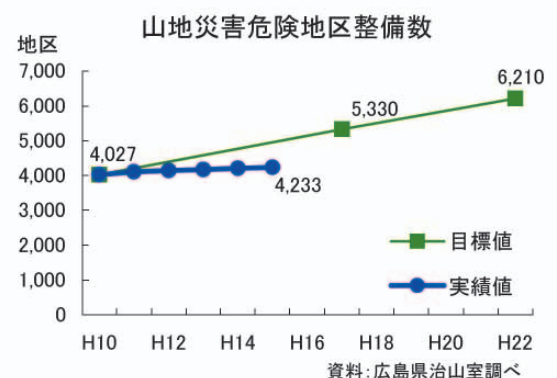
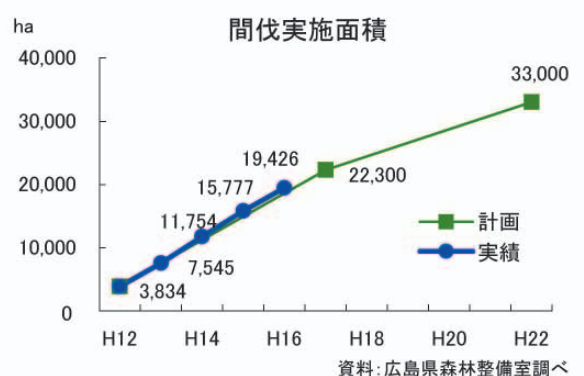
【成果と課題】

ー 着実な森林の整備と保全が必要ー

これまで松くい虫被害跡地の森林整備の推進や、計画的、重点的な間伐の推進、里山林整備モデル拠点整備による県民参加型森林整備の仕組みづくり、山地災害危険地区対策のための治山施設整備や森林整備に取り組んできました。

山地災害危険地区対策は、継続整備を必要とする箇所が多かったことから目標を下回ったものの、間伐実施面積等は計画に沿って整備を行い、多様な森林づくりに向けた適切な整備・保全は進みつつあります。

しかし、手入れ不十分な森林が依然として存在することから、今後も継続的で着実な整備・保全が必要です。



【資料編】

(7) 資源動向に即した生産体制の構築

【目標】

漁場環境の維持・修復及び栽培漁業や資源管理型漁業等の積極的推進と漁獲量の減少が著しい重要魚介類資源の維持・増大

【成果と課題】

- 一 計画的に種苗放流を実施しているが、魚価の低迷により生産額は減少 一

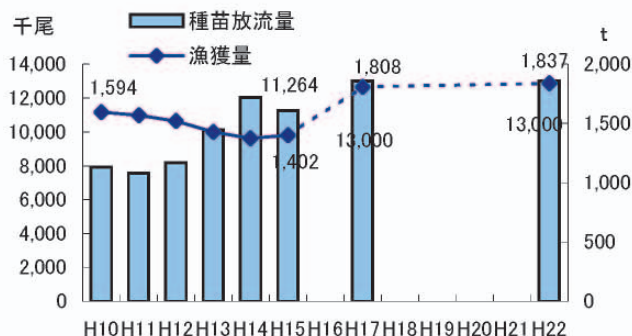
栽培漁業では、計画的に種苗放流を実施しており、近年、漁獲量は安定しています。

しかしながら、対象魚の生産額は、魚価の低迷により、平成10年の21億2千万円から平成15年には12億3千万円と年々減少しています。

このような状況に対応するため、小規模な海面漁業経営体を中心に生産構造改革を進め、担い手の育成と所得の向上を図る必要があります。

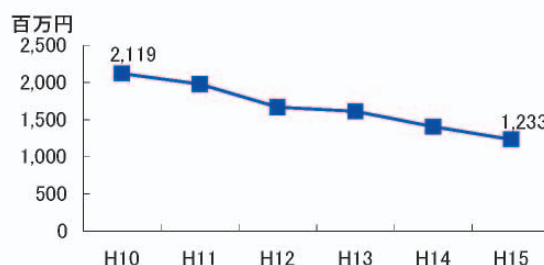
また、放流効果により資源量が回復した魚種（マダイ、クロダイ、ヒラメ）は、見直しを行い、地域のニーズに即した魚種に絞って放流する必要があります。

栽培漁業対象魚の放流量と漁獲量の推移



資料:「漁業生産統計調査」、水産振興室調べ

栽培漁業対象魚の生産額の推移



資料:「漁業生産統計調査」

(8) 広島かきブランドの再構築

【目標】

特色あるかき養殖による「広島かき」ブランドの再構築と安全で高品質なかきの安定供給

【成果と課題】

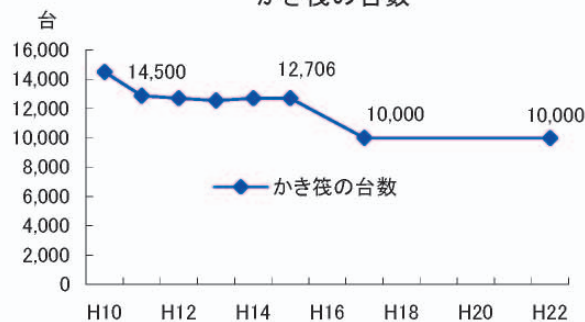
- 一 回復傾向にあるかき生産量 一

かき養殖筏については、生産者との積極的な連携により、平成10年に比べ1,794台（▲12%）が削減され、計画どおり生産改善の取り組みが行なわれました。

その結果、かきの生産量は、平成10年のヘチカブサ赤潮によるかきの大量へい死以降、回復傾向にあり、平成15年の生産額163億2,000万円は、平成12年に比べ6億7,000万円（4.2%）増加しています。

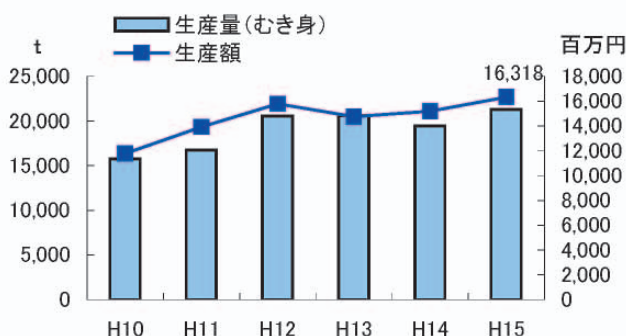
今後は、広島かきの市場での競争力を高めるため、消費者ニーズに即した広島県として特色あるかき養殖（特選広島かき、一粒かき、ワカかきなど）への取り組みを推進し、併せて安全・安心の確保のため、トレーサビリティシステムの普及拡大が課題です。また、引き続き、かき生産の基盤となる漁場環境の改善を実施する必要があります。

かき筏の台数



資料:広島県水産振興室調べ

かきの生産量と生産額の推移



資料:「漁業生産統計調査」

【資料編】

活性化行動計画前期の総括

【主な施策目標】

①土地利用型農業の再構築

農地を一つにまとめ効率的な営農を実現し得る集落農場型農業生産法人等が、本県土地利用型農業の相当部分を担う農業構造の構築

②1億円産地の育成

多様な消費者ニーズを踏まえた県産品の安定供給のため、産地の牽引役である企業の経営体を中心とした1億円産地の育成

③中山間地域等の農地保全

中山間地域等直接支払制度の活用等により、耕作放棄の原因となる農業生産条件の不利性を補正し、自律的な農業生産活動等による農地の公益的機能の維持・発揮

④採算の合う林業の再構築

主要林業地域における、効率的かつ安定的な県産材供給システムの構築による、木材の育林から生産・流通・加工全部門の採算性の向上

⑤災害に強い森林づくり

松くい虫被害地等の植生回復及び多様な森林への誘導による公益的機能の維持発揮、大量に存在する育成途上の人工林を健全で活力ある状態へ誘導

⑥資源動向に即した水産物生産体制の構築

漁獲量の減少が著しい重要魚介類（サワラ等）の資源維持・増大及び本県海域の特色を生かした水産物の安定供給

⑦広島かきブランドの再構築

より安全で高品質な「広島かき」の生産と安定供給体制の確保により「広島かき」ブランドの再構築

【成果と課題】

【農業】

- 集落法人、企業の個別経営体等の育成が一定程度進展。担い手への生産の集積を加速するとともに、経営の高度化が必要。
- 1億円産地数は増加したものの、農産物価格の低迷等により販売額は減少。新たな流通販売体制の確立による販売力の強化が必要。
- 直接支払制度の導入により農地保全に一定の効果。持続的農業生産活動による農地保全への誘導が必要。

【林業】

- 重点地区では木材生産量は伸びたが全県では減少。まとまった一定品質の木材の安定供給が求められており、林業の低コスト化や木材の供給体制整備の再構築が必要。

【水産業】

- 海面漁業については、漁獲量、生産額ともに減少。
- かき養殖については、適正養殖のための養殖筏台数の削減により、生産量が回復するなど一定の成果。

【主な指標】

項 目		12年度実績	16年度実績	17年度目標	達成率
土地利用型農業の再構築	集落法人設立数【法人】	10	66	210	31%
	法人によるカバー耕地面積【ha】	241	1,752	8,570	20%
1億円産地の育成	1億円園芸産地数【産地】	50	65	60	108%
	1億円産地販売額【億円】	141	160	234	68%
	1億円畜産(肉用牛)地数【産地】	13	15	16	94%
	1億円野菜産地の販売量【トン】	14,217 t (H10) → 14,635 t (H16)			
県産材生産量(㌔・㌔/㌔)【千m ³ 】		70	49	92	53%
栽培漁業対象魚種の漁獲量【トン】※15年度の実績数値		1,519	※1,402	1,700	※82%
かき養殖生産量【トン】		20,567	20,932	20,000	105%
間伐実施面積【ha】※目標数値はH12～17の累計		3,834	19,426	22,300	87%

広島県農林水産業の主要指標

【 農 業 】

区 分	調査時	単位	実 数	
			広 島 県	全 国
総農家数	2005.2.1	戸	74,237	2,837,967
販売農家数	〃	〃	42,070	1,952,929
主業農家数	〃	〃	3,998	428,514
準主業農家数	〃	〃	8,895	440,739
副業的農家数	〃	〃	29,177	1,083,676
農家人口（販売農家）	〃	人	151,924	8,325,061
（うち女性比率）	〃	%	51.5	50.8
（うち65歳以上比率）	〃	〃	37.8	31.6
農業就業人口（販売農家）	〃	人	63,028	3,337,639
（うち女性比率）	〃	%	55.9	53.3
（うち65歳以上比率）	〃	〃	69.6	58.1
基幹的農業従事者（販売農家）	〃	人	43,565	2,365,300
（うち女性比率）	〃	%	48.2	46.2
（うち65歳以上比率）	〃	〃	75.0	58.6
耕地面積	2005.7.15	ha	60,500	4,692,000
（水田）	〃	〃	44,200	2,556,000
（普通畑）	〃	〃	8,290	1,173,000
（樹園地）	〃	〃	7,060	332,300
（牧草地）	〃	〃	942	630,600
農作物作付延面積	2004年産	〃	49,400	4,422,000
耕地利用率	〃	%	81.1	93.8
農業産出額	2004	百万円	104,380	8,914,300
（米）	〃	〃	30,170	2,014,200
（野菜）	〃	〃	17,080	2,133,300
（果実）	〃	〃	12,640	762,400
（花き）	〃	〃	3,170	413,400
（畜産）	〃	〃	36,880	2,619,200
生産農業所得	〃	〃	35,540	3,375,000
農家総所得	〃	千円	5,460	5,083
農業所得+農業生産関連事業所得	〃	〃	2,766	3,753
（うち農業所得）	〃	〃	321	1,262
農業依存度	〃	%	11.7	36.0

【 林 業 】

区 分	調査時	単位	実 数	
			広 島 県	全 国
森林面積	2000	ha	614,436	24,490,387
国有林	〃	〃	47,808	7,239,651
民有林	〃	〃	566,628	17,250,736
うち人工林	〃	〃	166,498	7,910,933
うち保安林	〃	〃	197,382	4,695,963
うち松林	〃	〃	181,096	974,953
森林蓄積総数	〃	千m³	79,074	3,745,537
林家数	〃	戸	50,455	1,018,752
農家林家数	〃	〃	33,556	657,517
林家以外の林業事業体数	〃	事業体	4,398	153,045
森林組合数	2003	数	18	963
森林組合員数	〃	人	80,306	1,634,873
林業産出額	2004	百万円	5,850	437,410
（木材生産）	〃	〃	2,620	220,480
木材(素材)生産量	〃	千m³	221	15,615
木材(素材)需要量	〃	〃	2,916	30,855
外材(素材)入荷量	〃	〃	2,668	15,240
まつたけ生産量	〃	t	38	149
林野火災被害面積	〃	ha	430	1568
松くい虫被害量	〃	m³	28,256	733,800

【 水産業 】

区 分	調査時	単位	実 数	
			広 島 県	全 国
漁業経営体	2004	経営体	3,217	129,877
海面漁業	〃	〃	2,739	106,940
海面養殖業	〃	〃	478	22,937
漁業就業者数	2003	人	5,452	238,371
漁業生産量	2004	t	140,513	5,775,825
海面漁業	〃	〃	18,059	4,455,064
海面養殖業	〃	〃	121,988	1,214,988
かき養殖	〃	〃	116,540	234,151
内水面漁業	〃	〃	388	60,113
内水面養殖業	〃	〃	78	45,660
漁業生産額	〃	億円	272	15,010
海面漁業	〃	〃	90	10,655
小型底びき網	〃	〃	32	971
その他の刺網	〃	〃	10	688
ばち網	〃	〃	21	(472)
海面養殖業	〃	〃	182	4,356
かき養殖	〃	〃	159	377
のり養殖	〃	〃	10	986
ぶり養殖	〃	〃	6	1,112
まだい養殖	〃	〃	2	545